

120713 銀竜草

金剛山系の薄暗い林の中に、全身真っ白で「野草」なのか「キノコ」なのか判別できないものが生えていました。

近づいてよく見ると...

「**ギンリョウソウ**」の群落でした！！

下向きに咲く花とウロコのような鱗片、まさに地中から顔を出した“白い竜”のようです。

漢字では「**銀竜草**」と書きますが、薄暗い林内で透き通るような白い姿から「ユウレイタケ」とも呼ばれています。

何故植物なのにこんなに白いのでしょうか？

それは葉緑素を持たないからです。

ではどのように養分を得ているのでしょうか？

周囲の腐葉土から栄養を得ている「腐生植物」である、と説明されている本もあるようですが、樹木と共生する菌類に寄生する「寄生植物」というのが正しいそうです。

つまり、キノコのようにも見えるのですが、実はれっきとしたイチヤクソウ科の高等植物です。

光合成は必要ないので、薄暗い林床でも花を咲かせることができ、蜜を出してマルハナバチなどを呼び寄せ、受粉、結実するのです。

では、花の中はどのようになっているのでしょうか...

失礼して覗いてみました。

5枚程度の花弁のようなものの中に15本前後の雄しべがあり、先には黄褐色の「やく」が見えます。

一方、中央にある雌しべは太く短く、柱頭のふちは青っぽい色です。

このように、森の中には不思議な植物も生きているのですね！

















